

■開催概要

- 大会名称 : Porsche Sprint Challenge Japan 2024 Rd.3-4
2024 鈴鹿クラブマンレースRound 3
- 主催 : 熱田レーシングクラブ (ARC)・鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 後援 : 鈴鹿市、一般社団法人鈴鹿市観光協会 (FEクラス)
- 協力 : AASC、ARCN、KRHC、チーム淀、OCCK
- 競技 : JAF公認 準国内競技
- 会場 : 鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース (5.807km)
- 開催クラス : 総参加台数/128台
Porsche Sprint Challenge Japan/14台
フォーミュラEnjoy/14台
スーパーFJ/30台
FIT 1.5/22台
MEC120/VITA-01 26台、v.Granz/22台
- 開催日 : 2024年6月15日(土)、16日(日)
- 天候・路面 : 15日(土)曇/ドライ、16日(日)晴れ/ドライ



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2024/clubman/

■次回レース開催概要

- シリーズ名称 : 2024鈴鹿クラブマンレースRound 4
- 開催日 : 2024年10月5日(土)・6日(日)
- 主催 : 京都レーシングハイブリッドクラブ (KRHC)、SMSC
- 会場 : 鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース (5.807km)
- 開催クラス : スーパーFJ、FIT、フォーミュラEnjoy



MEC120には48チームがエントリー。レース直後のパルクフェルメには壮観な光景が広がった

48チームが集結したMEC120が開催! 華やかで激しい耐久レースとなった

2024年、第3戦目となる鈴鹿クラブマンレースが鈴鹿サーキットレーシングコース フルコースで行われた。

各クラスとも6月15日(土)に公式予選を消化。同15日夜間には、鈴鹿市内で降雨があったため、16日(日)午前9時から始まるスーパーFJ決勝レースの路面状況が気になったが、幸いにも16日(日)は早朝から快晴。初夏の日差しが降り注ぎ、スーパーFJから全レースの決勝がドライコンディションで行われた。

第3戦でやはり注目度が高かったのが、新しい120分耐久レースとして、昨年7月に鈴鹿サーキットで初お披露目された「MEC120」。v.Granz、VITA-01が混走する120分耐久レースは昨年同様、鈴鹿サーキットでのこの日の開幕戦を皮切りに、モビリティリゾートもてぎ、富士スピードウェイ、岡山国際サーキットを転戦。合計4戦で争われるシリーズ戦として開催される。

鈴鹿サーキットでの開幕戦は120分のレース時間の半分弱がセーフティカーランとなる荒れた展開に。義務付けられた2回ピットインといったレギュレーションをどのタイミングで消化するか、レース状況に応じた柔軟な作戦・判断がレース結果に反映されることになった。48チームがエントリーして実に賑やかなで華やかなMEC120を含めた全レースが無事に終了。

次戦は10月5日(土)・6日(日)にRound 4が控えている。



レース直前も熱気に包まれていたMEC120

■スーパーFJ class

ポールポジションから小田優が好スタートを決め、3番グリッドの渡会太一が2番手で追う。迫隆眞は前を走る渡会をパスして2番手になる。オープニングラップを終え、ジェントルマンクラスのトップは19番手を走る中島匠だ。小田、迫、渡会、4番手を走る加納康雅、5番手の松本拓海までは単独になる。レース6周目、加納は渡会をパスして3番手へ浮上する。トップの小田と2番手の迫は、8周目を終えた時点で1秒356の差がある。ファイナルラップへ。レースはそのまま小田が優勝、2位に迫、松本は渡会をオーバーテイク。0.115差で渡会を上回り4位チェッカー。ジェントルマンクラスは総合18番手の中島匠が優勝。



ポールtoウィンを決めた小田優。一度もトップを譲らない走りだった



優勝は小田優、2位に迫隆眞、3位は加納康雅。加納はレース後半、見事な走りだった



■スーパーFJ class ※ジェントルマンクラス



ジェントルマンクラスを制したのは中島匠。2位は山根一人、3位は高橋浩史となった

■フォーミュラ Enjoy class

ポールポジションをゲットしたのは樋尻勝利、2番グリッドには古里拓といったフロントロウになった。レースは3番グリッドの中島一郎がホールショットを奪う。2番手に古里、樋尻、安田知弘、村瀬賢二と続く。マイスターズ・カップのトップは11番手を走る多屋貞一だ。序盤、樋尻に対して反則スタートのペナルティが科され、樋尻には苦しい展開になった。中島をトップにして古里、安田が続き先頭集団を形成する。5周目、村瀬が安田をパスして3番手へジャンプアップ。その後、130Rで接触の影響か4台のマシンが止まるアクシデントが発生。これにより赤旗中断となりレースはその後、終了。中島が優勝、古里、村瀬が表彰台に立った。



3番グリッドスタートから優勝した中島一郎



優勝は中島一郎、2位に古里拓、3位には村瀬賢二となった



■フォーミュラ Enjoy class ※マイスターズ・カップ



マイスターズ・カップは総合6位の多屋貞一が優勝。田中伸彦も総合7位と健闘した

■FIT1.5 Challenge class

2番グリッドから杉原悠太がホールショットを奪い、ポールポジションの清水悠祐は2番手になる。林大輔、オオタクウヤ、KAKEYANも加わり先頭集団のバトルが激しくなる。清水は杉原をオーバーテイクして、トップになり2周目へ。トップの清水はじわじわと差を広げ、2番手を走る杉原を引き離す。だが、レース3周目、トップの清水に反則スタートのペナルティが科される。4周目、上位陣を走る林大輔がスピン。これによりセーフティカーが導入。先頭を清水、岸元優、KAKEYANのオーダーでセーフティカーランが続く。レース残り2周でセーフティカーランは解除される。先頭を走る清水だったがペナルティにより、優勝を果たしたのはKAKEYAN。2位は住直哉、清水は3位となった。



22台がエントリーしたFIT 1.5クラス。7番グリッドスタートのKAKEYANが優勝した



優勝は見事な逆転勝利のKAKEYAN。3位の清水悠祐には痛いペナルティとなった

■ポルシェスプリントチャレンジジャパン 2024 第3戦・第4戦

2番グリッドから杉原悠太がホールショットを奪い、ポールポジションの清水悠祐は2番手になる。林大輔、オオタクウヤ、KAKEYANも加わり先頭集団のバトルが激しくなる。清水は杉原をオーバーテイクして、トップになり2周目へ。トップの清水はじわじわと差を広げ、2番手を走る杉原を引き離す。だが、レース3周目、トップの清水に反則スタートのペナルティが科される。4周目、上位陣を走る林大輔がスピン。これによりセーフティカーが導入。先頭を清水、岸元優、KAKEYANのオーダーでセーフティカーランが続く。レース残り2周でセーフティカーランは解除される。先頭を走る清水だったがペナルティにより、優勝を果たしたのはKAKEYAN。2位は住直哉、清水は3位となった。



第3戦のレース前。KEN YAMAMOTOが見事なポールtoウィンを決めた



第3戦、GT3-1クラスの表彰。優勝はKEN YAMAMOTO、2位はMUSASHI、3位はHISATEAとなった

■MEC120 Minutes Endurance Challenge (MEC120)【その1】

48チームが参戦。総合トップのポールポジションポールからスタートした渡会太一／山口礼組がホールショットを奪う。オープニングラップを終え、渡会太一／山口礼組を追うのが杉本雄作／三島優輝／塩津佑介組、林寛樹／児島弘訓／木村偉織組、阪直純／下野璃央組となる。VITA-01のトップは22番手を走る藤原大輝／奥住慈英組、さらに中里紀夫／大賀裕介組がクラス2番手を走る。

8周目、マシンのコースアウトがありセーフティカーが導入される。総合トップはv.Granzクラスの渡会太一／山口礼組、VITA-01のトップは藤原大輝／奥住慈英組だ。レースが開始から60分に差し掛かる頃、このレースで3回目のセーフティカーランへ。各チーム、ピットインや給油のタイミングを計れない難しいレース展開を迎えていく。



優勝した大阪八郎／猪爪杏奈／荒川麟組。スタートドライバーは猪爪杏奈が務めた



表彰台の頂点に立ったv.Granzクラスの大坂八郎／猪爪杏奈／荒川麟組。2位はOOKA／佐藤公哉組、3位は阪直純／下野璃央組

MEC120 Minutes Endurance Challenge (MEC120)【その2】

レースは残り45分となる頃、トップを林寛樹／兒島弘訓／木村偉織組が走行。BANKCY／藤波清斗組が2番手、阪直純／下野璃央組が3番手を走る。長くトップを走っていた渡会太一／山口礼組は200Rで大きなクラッシュを喫してしまい、またもやセーフティカーランとなる。レースは残り25分、各チームが32周を走り終えるものの、ここまで約半分の時間がセーフティカーランという荒れた展開になる。セーフティカーランが長い影響を考え、給油回数を1回のみをしていたOOKA／佐藤公哉組がレース最終盤でトップへ。このまま逃げるかに思われたが、2番手を走っていた大阪八郎／猪爪杏奈／荒川麟組が残り3分でオーバーテイク。トップに立つとそのままトップチェッカー。荒れたMEC120の開幕戦で見事に勝利を収めた。



VITA-01 Pro-Amクラスの優勝は三浦愛／斎藤愛未組、2位は藤原大輝／奥住慈英組、3位は吉村雅一、谷川達也組



VITA-01 Ama-Amクラスの優勝は中里紀夫／大賀裕介組、2位は西尾和早、猪股京介組、3位は上田裕司／西澤耕治組

Voice of Pick up Driver & Team

この日、キラリと光った
ドライバーに一問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

MEC120 v.Granzクラスで優勝！

荒川麟／猪爪杏奈／大阪八郎組



開幕戦で勝利を決めた、左から荒川麟／猪爪杏奈／大阪八郎組

Q: 優勝を決めた勝因を教えてください (以下、回答は大阪八郎選手)

「スタートドライバーだった猪爪杏奈選手の頑張りが大きい。彼女自身はv.Granzに、ほぼ乗ったことがなかった。それでも、しっかりとレースを作ってくれました」

Q: セーフティカーランが続くレースになりました

「ドライバーが3人の場合、真ん中は最も速いドライバーが長く走ることが多い。ですが今回、セーフティカーランが多かったため、真ん中は3人のなかでタイムが出ない私が走り、最後のドライバーとして荒川麟選手に長めに走ってもらった。この作戦もうまくいきました」

Q: 開幕戦が終わっての課題は

「とにかく、まだまだマシンに慣れてないです。セッティングを含めて、これから時間をかけて調整していきたい」

Q: 第2戦に向けての意気込みは

「メンバーはこの3人で固定が基本と考えています。マシンの特性もチームや個人で知っていく時間を作りたいです」